

# 投光器 学習版

国労東海貨物協議会  
2013年1月25日 No.26  
発行責任者 鈴木 和巳

## 今話題の「アベノミクス」とは何か？果たして景気が良くなるのか？ 私たち労働者の生活実態が改善されるのかを学習しよう！

政権が変わり、景気浮揚施策として「アベノミクス」なるものが新聞紙上に  
取り上げられています。では、「アベノミクス」とはどのようなものでしょう？

簡単に言えば安部首相は経済浮揚施策として、日銀から流通するお金の量を  
増やすことで、企業の資金調達を容易にして、企業の設備投資などの意欲向上  
を基に、それに関わる各種企業の業績を上げようとするものです。

更に労働者にまでお金が回るようにして、個人消費を増やすことで消費者物価指数を2%程度上  
げ、企業も儲けを増やし景気回復に向けるという図式です。また、安部首相は賃上げを実施した企  
業への優遇施策も提案しています。

一見すると理にかなっていると思いますが、この様な図式が現在の状況に当てはまるかが非常に  
疑問です。様々な評論家により意見は分かれますが、この施策によりその実効性が表れるのが2～  
3年後になると見ている方が多いと言われています。ということは、まだまだ労働者に厳しい状況  
は続くと思われます。



また、経団連の今春闘における経営側の指針となる「経営者労働政策委員会  
(経労委) 報告」を見れば明らかですが、当初の賃下げ示唆を削除したものの、  
定期昇給の凍結や延期の可能性を示しています。極端に企業利益が増えなけれ  
ば経営側は労働者への投資を考慮していません。現在までも企業は厳しさだけを  
強調する中で社内留保を増やし続け、労働者への配分より株主への配分を優先  
し続けています。

## 社内留保の切り崩しにより労働者の生活が潤う社会を目指そう！

自民党政権が復活し、国債の増発行による公共投資を拡大するという情報  
に対し、株価が上昇し円安傾向に動いています。ニュースなどでも株価の高  
騰に対し期待する投資家の映像も流れていますがどう思いますか？

貨物会社に働いている我々としては、それほど敏感には考えていませんが、  
円高・円安に左右される輸出入関連企業に働いている労働者は、相当敏感に  
なっているようです。(まあ我々もその様な企業の輸送部門を請け負っている  
身ですから影響はある訳ですが・・・)



労働者は自らの所得を増やし少しでも良い暮らしを求めています。会社だけが潤い、労働者に犠  
牲を押し付けられる今の状況を打破しなくてはなりません。そのために労働者が何をすべきかを考  
えることが重要となります。他人任せではこの状況は改善しません。国労と一緒に闘いませんか？

この投光器学習版は国労東海本部のホームページにも掲載されています。

国労東海本部のURLは <http://www.kokurotokai.com> です！